



# “最後のテレビ” から愛をこめて

## 第一部

### 伊丹十三のテレビ視聴会

2011年10月30日(日)13:00-16:00(視聴会のみ予約制)

会場 = 新・港村(新港ピア) Aゾーン スクール校舎

応募フォームURL → <http://bit.ly/nd8fAZ>

※視聴する番組は後ほど“最後のテレビ”ホームページにて発表致します。

参加費 = 無料(新・港村パスポート300円が必要)

## 第二部

### “最後のテレビ”から愛をこめて～伊丹十三への13の質問～

放送日2011年10月30日(日)17:00-19:00

出演・共同企画 | 阿部 純(研究者/東京大学)、毛原大樹(最後のテレビ)

中村佑子(テレビディレクター、プロデューサー/テレビマンユニオン)

水野 祐(弁護士/Arts and Law、クリエイティブ・コモンズ・ジャパン)

## “最後のテレビ” から、最後のテレビマンについて

ある日、知人から「テレビ(最後のテレビ)をやっているのだから是非見るように」と、DVDを手渡されました。「13の顔を持つ男」と書かれています。そのドキュメンタリーの中には、映画監督の他、エッセイスト、イラストレーター、商業デザイナー、俳優、さらには、CMやテレビ番組までもつくってしまう伊丹十三の魅力が紹介されていました。とりわけて、テレビマン時代の顔については、“テレビ” にしか出来ない事を探求する姿に、芸術家としての作家性を感じる事が出来ます。普段見るテレビ番組については、よっぽど専門的な視点で見ない限り、それに携わる個人の作家性を感じる事は滅多にありません。1つの番組を作り上げるには大勢の人が関わるので、その番組全体に制作者一人の色が濃く出るとはあまり無いのでしょう。しかし、伊丹十三の番組には色が強く出ています。それが、ドキュメンタリー番組であっても例外ではありません。いったい何故でしょう。テレビ離れが深刻化しているとされる現在、彼の作った番組はどの様に受け止められるのか、そしてテレビとの関わり方を変えるヒントは彼の番組の中にあるのか。

テレビ業界の方には語弊が生じてしまうかもしれませんが、ここはあえて「最後のテレビマン 伊丹十三」と位置づけて、テレビが可能とする自由な表現について考えてみるのはいかがでしょうか。

## 補足、“テレビ的”について

最後のテレビマン 伊丹十三は「テレビ的」という言葉を「面白さ」や「自由さ」という意味でしばしば使っていたようで、「映画的」よりもある意味上位に捉えていたと思われる。

私たちは、この「テレビ的」という言葉について確かめるべく、伊丹十三が携わった番組を視聴し、それらについて話し合う場を“テレビ” という舞台上に儲けたいと思いました。是非、皆さんも公開生放送に足を運んで頂き、一緒に考えて頂ければ幸いです。

### 第一部

#### 伊丹十三のテレビ視聴会

2011年10月30日(日)13:00-16:00(視聴会のみ予約制)

応募フォームURL→ <http://bit.ly/nd8fAZ>

※視聴する番組は後ほど「最後のテレビ」ホームページにて発表致します。

▶参加費:無料(新・港村バスポート300円が必要)

▶会場:新・港村/Aゾーン スクール校舎

### 第二部

#### “最後のテレビ” から愛をこめて ～伊丹十三への13の質問～

共同企画者4人による普通のトークイベントでもなく普通のテレビでもない“最後のテレビ” ならではの公開生放送を行います。

2011年10月30日(日)17:00-19:00

▶出演・共同企画

阿部 純(研究者/東京大学)

毛原大樹(最後のテレビ)

中村佑子(テレビディレクター、プロデューサー/テレビマンユニオン)

水野 祐(弁護士/Arts and Law、クリエイティブ・コモンズ・ジャパン)

※放送を受信するための環境はこちらで用意いたしますが、ご自分でポケットアナログテレビ等をお持ちいただく会場内であればVHFの1chで受信が可能です。

▶放送エリア:横浜で開催中の新・港村界限

“最後のテレビ” ホームページ

<https://sites.google.com/site/saigonotelevision/>

「最後のテレビ」から愛を込めて」特設ページにも情報が載っております。

(伊丹十三のテレビ番組視聴会のご予約もこちらから出来ます。)

#### ▶ “最後のテレビ” について

“最後のテレビ”は、使われなくなったアナログ機材と微弱電波を使った誰でも開局可能なスーパーローカルエリア放送です。2011年のアナログ放送終了という歴史的瞬間から、これからのアナログテレビのあり方を考える自由なメディアの活動です。過去に芋洗坂のバー、閉館前夜の赤坂プリンスホテル、アナログ停波直後の芝公園などから放送を行っています。現在は、現代美術の国際展、横浜トリエンナーレ2011の関連イベント、「BankART Life III ～新・港村 小さな未来都市～」が行われている新港ピアという会場に小さなテレビ局を建て、電波をアナログ1chで発射しております。会場内にある街頭テレビで受信することが可能です。(もちろんアナログテレビを持参しても映ります)テレビとの関わり方が変わる今までと違ったタイプのテレビを目指しています。

【新・港村バスポート料金】

一般 300円 / 大学生 250円 / 高校生 200円

※中学生以下、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

【アクセス】新・港村(新港ピア) 横浜市中区新港2-5

横浜みなとみらい線「馬車道駅」6番出口[赤れんが倉庫口] 徒歩約10分

